

工学部紀要サンプル

琉球 太郎* 千原 一郎*

Bulletin of the Faculty of Engineering University of the Ryukyus

Taro RYUKYU* Ichiro SENBARU*

Abstract

This article explains how to use a \LaTeX style that produces a good approximation to the style used in the Bulletin. The article is itself an example of the KIYO.sty style in action.

Key Words: Style file, \LaTeX , Bulletin.

1. まえがき

工学部紀要編集委員会では、工学部紀要の投稿規定を下記のように変更することを提案します。

- ・カメラレディ原稿の採用 (54 行 26 文字 (片段)-2 段組)
- ・B5 版から A4 版に変更

これまで、工学部紀要原稿は、ワープロ原稿の写植により作成されていましたが、誤植が多く校正に多大な時間を必要としました。とくに、数式は校正が厄介でした。また、図や表の配置が著者のイメージ通りにならないなどの不満もありました。最近、高性能なワープロ環境を利用できるため、国際会議等ではカメラレディが一般的になっており、このシステムを工学部の紀要に採用すればそのような問題を解決できます。カメラレディ原稿を用意できれば原稿校正が楽になると共に、原稿の配置も著者の意通りになります。

今回のもう一つの改善は、原稿を B5 版から A4 版に変更した点です。紙面が大きくなるため、数式や図が読み易くなります。なによりも、ページ数や文字入力コストが削減され出版コストの低減につながると考えます。

工学部紀要をカメラレディで準備するには、例えば \LaTeX のスタイルファイルを用いれば簡単にできます。紀要編集委員会で作成したスタイルファイル KIYO.sty を使用すれば誰でもカメラレディ原稿を同一の規格で作成できます。他のワープロでもこのサンプルと同一の寸法であればカメラレディ原稿として受け付けます。[もちろん、これまでのワープロ入力 (A4 用紙一段組, 27 行 26 文字) による原稿受付も従来通り行います。]

この原稿例は新しい工学部紀要の投稿規定案に沿って作成されています。今後、紀要原稿を作成される方は、この原稿案に従ってカメラレディ原稿を作成してください。

次章以降では \LaTeX のスタイルファイルの使用法を説

```

\documentstyle[twocolumn,twoside]{KIYO}
\begin{document}

\small
\title{工学部紀要サンプル}
\author{琉球 太郎 \thanks{工学部電気電子工学科...}}
\markboth{琉球大学工学部紀要.....}{琉球・千原：工学部紀要}
\etitle{\bf Bulletin of the Faculty of .....}
\eaauthor{Taro {\sc Ryukyu}$^{*}$ .....}
\markboth{琉球大学工学部紀要\\\第 51号, \ 1996 年}{琉球・千原：工学部紀要}
\abst{This article .....}
\key{Style file, \LaTeX, Bulletin.}
\maketitle

\section{まえがき}
工学部紀要編集委員会では、.....

\end{document}

```

Fig. 1. \LaTeX ファイルの書き方例

明します。

2. スタイルファイル (KIYO.sty) の使用法

KIYO.sty は \LaTeX 原稿の最初で次の様に設定します。

```
\documentstyle[twocolumn,twoside]{KIYO}
```

デフォルトの文字の大きさは 10 ポイントです。論文題目、著者名等の表示は、2.1.2 小節を参照下さい。

図 1 において、 \LaTeX ファイルの入力法を示しています。論文題目や著者名を簡単に入力できます。

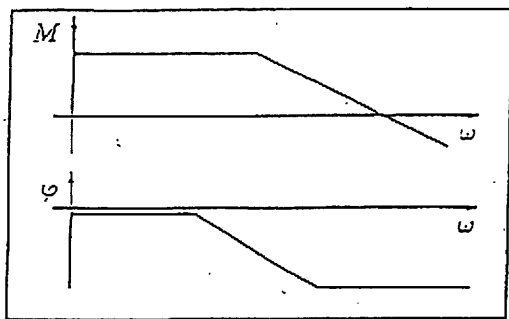


Fig. 2. 図の一例 (図説は図の後に加える)

TABLE 1 表の一例 (表説は表の先頭に加える)

	title page	odd page	even page
onesided	leftTEXT	leftTEXT	leftTEXT
twosided	leftTEXT	rightTEXT	leftTEXT

正しく表示するために最低 2 回のコンパイルが必要です。
 フットノート¹は、この文章で使用されているように使用して下さい。

4. むすび

このサンプルは、KIYO.sty の簡単な使用法を示しただけで、 \LaTeX の詳細は述べていません。 \LaTeX の関連書籍 [2], [3], [4], [5] は多数存在するため、本屋で簡単に発見できると思います。 \LaTeX の詳細はこれらの本を参照下さい。

謝 辞

貴重な時間をさいてスタイルの検討を頂いた工学部紀要編集委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

文 献

- [1] Stephen A. Trovato, John O. Parry, and James M. Burger, Slowing the Aging of Nuclear Power Plants, *IEEE Spectrum*, Vol.32, No.3, pp.32-36, March 1995.
- [2] Leslie Lamport, *A Document Preparation System: \LaTeX , User's Guide and Reference Manual*, Addison Wesley Publishing Company, 1986.
- [3] Helmut Köpka, *\LaTeX , eine Einführung*, Addison-Wesley, 1989.
- [4] D.K. Knuth, *The \TeX book*, Addison-Wesley, 1989.
- [5] D.E. Knuth, *The METAFONTbook*, Addison Wesley Publishing Company, 1986.

`\markboth{leftTEXT}{rightTEXT}` は、ヘディングを指定するためにあります。

2.1 主な注意点

図や表の説明位置に注意して下さい (図説は図の下、表説は表の上に表示する)。

2.1.1 環境 定理等の環境は通常の \LaTeX [2], [3] コマンドを使用して定義できます。証明の環境は既に定義してあります。

Theorem 1 (定理の名前) 次のシステムを考える

$$\dot{x} = Ax + Bu \tag{1}$$

$$y = Cx + Du$$

もし A が安定であれば、 $\{A, B\}$ は可制御である。さらに、任意の B に対してこの性質を保つ。

Proof: 証明環境は、このように使います。 ■

2.1.2 文字のポイントサイズ キャメラレディで原稿を作成する場合は、紀要スタイルを統一するために下記の文字の大きさ (ポイント (pt)) を使用してください。なお、章や節の「見出し」の前には番号を順に付けて、ホルド一体にしてください。

- ・ 和表題 18pt
- ・ 和名 12pt
- ・ 英表題 12pt
- ・ 英名 12pt
- ・ Abstract 見出し 12pt
- ・ Abstract 文章 10pt
- ・ Key words 10pt
- ・ 章、節見出し 10pt
- ・ 本文 10pt
- ・ 図、表説 8pt
- ・ 文献 8pt
- ・ フットノート、ヘディング、ページ番号 8pt

2.2 資料の書き方

資料は、論文と同じスタイルで書いて下さい。

2.3 原稿の投稿

原稿は A4 版の白紙にプリントして学科の紀要編集委員へ締切日までに届けて下さい。

3. その他の表現

文献番号を加えたい場合は、"`... \cite{CAR} ...`" とすれば "`... [1] ...`" のような表現になります。文献番号を

¹The footnote is indicated by a footnote mark